

第617号



番木村公民館：長野県下伊那郡番木村6664



発行日 2020年8月17日
発行責任者 番木村公民館長 市瀬 徹
編集責任者 公民館編集部 長 仲田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

七月豪雨 各所で被害

六月三十日から活発化した梅雨前線の影響により、長野県内では南部を中心に大雨が降り続きました。特に七月九日に降った大雨で村内では大規模な土砂崩落が発生し、被害は約一〇〇箇所にも及びました。

くりん草で有名な九十九谷森林公園は、土砂によって通路が寸断され、くりん草園全体に甚大な被害を及ぼしました。また、寺ノ前では、村道一号線が二度の土砂崩落により通行ができなくなり、十二日未明には県道大島阿島線が、加々須地区で高さ六十m幅八十mにわたってのり面が崩落、大島地区六十六人が孤立してしまいました。村

では職員を大島へ派遣し、状況調査し、十三日に衣料品や食料、衛生用品等を届けました。う回路が整備されましたが、大雨により再び流失、林道も崩落の危険があり、一時通行不能になりましたが、架け替えられたう回路により、車の通行が可能となりました。大島地区ではキュウリやブルーベリーの収穫がピークを迎えており、う回路を使ってJAが協力して出荷できるようにしました。

長期の雨により、土中に水分が多く含まれたときは、雨が上がつた後でも土砂崩落が起きやすくなっています。これを教訓に、十分気を付けましょう。

掠鳩十ものがたり 65

『掠鳩十全集』掲載作

掠鳩十頭影会 久保田 毅

掠鳩十全集十二 「日高山伏物語」 昭和四十五年四月

その三「タンス」 「ケチンボウの山伏どの は、何十年というあいだ、朝から晩まで、金たためのことばかり考えているが、いったいどのくらいもっているであろうか？」

「しこたま、ためこんでいるにちがいない」 「千両箱の二つや三つは、つんでいるかもしれない」 「天井うらにでもかくしてあるのかな」 「あんなボロ天井に千両箱をおいたら、天井が落ちますわ」 などなど、山伏どののは、たくさんのお金をどこにしま



中の様子



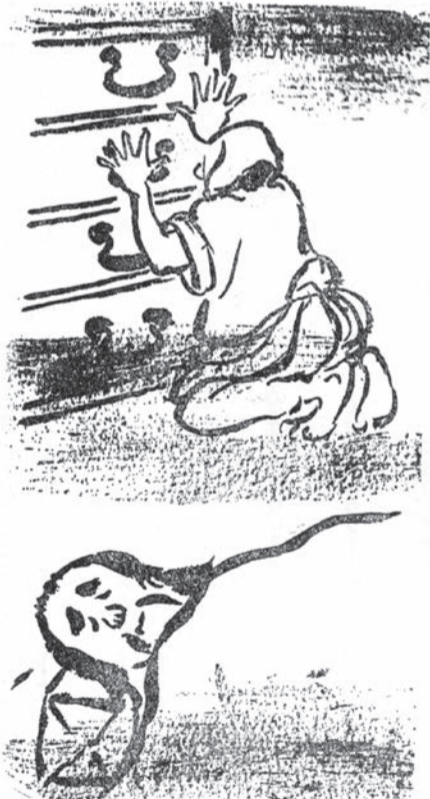
くりん草園入り口



寺の前 災害時の様子



大島地区 整備中のう回路



まいこんでいるのかという話で、もちきりになってしまっています。

「このうわさを耳にしたのが、大阪から流れてきた盗人の源次であった。『ふふう。これは、うまい話を聞いたぞ！ケチンボウというやつは、けつして、じぶんの近くから金をはなさないものだ。まぢがいなく、家の中にかくしてあるにちがいない。ひとつぬすみだしてやれ！』

山伏どのがいつもすわっている、その後ろに古ぼけた大きなタンスがあり、そこにはもったいないくらい立派なタンスです。

「山伏め！このタンスの中に小判をしまいこんでいるな」 ある夜半、源次は、山伏どのの家にしんびこみま

「デブの女中も、おきんも山伏どのも、一家そろって、大きなイビキをかいてねむっていた。源次は、まっ暗いなかを、山伏どのの居室にしのびこんだ」

そして、タンスに近づいてそっとタンスに手をかけた。『おやっ！』とおどろいた。タンスはなくて、板かべに手がふれるばかりである。源次は、あわててそこらをさわってみるのです。でも、タンスはなくて、どこも板かべだけです。源次はどうしたでしょうか。

「ふしぎに思っ、火打石で火をつけてみると、山伏どののところにタンスは、タンスはタンスでも、絵にかいたタンスであった」 これには、いかなる盗人もどうすることもできなかったという事です。

お知らせ

公民館行事

開催延期・中止のお知らせ

番木村公民館では今般の新型コロナウイルスの感染拡大を受け、以下の行事の開催を延期または中止とさせていただきます。皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

・八月三十日(日) 楽遊塾第2講座 「ボーセラーズ教室」

・開催延期(時期未定)

・九月五日(土) タテタカコ&安田業津紀ライブ&講演会

・開催延期(時期未定)

・九月十三日(日) 分館対抗男女混合ソフトバレーボール大会

あの時

一旦落ち着いたと思われた新型コロナウイルスの感染が再拡大している。全国の新規感染者数は連日千人を超え、第二波がやってきたといえる。東京を除いてスタートした「GO・TOトラベル」は、新規感染者数が過去最多を更新する度に批判され、宿泊施設ではキャンセルが相次いでいる。僅かではあるが戻りつつあった観光地への客足も再び鈍ってきている。

社会経済活動を維持しながら感染予防を徹底し、感染の拡大を阻止することは至難の業だ。しかし、経済活動を再び止めることは出来ない。国は具体的な対策を講じることなく各自自治体に丸投げしている。「専門家の意見を聞いて」とは言っているが、本当に意見を聞いて判断しているか疑わしいと私は思う。コロナに感染すること、重症化して命の危険にさらされることも怖い。宿泊施設や飲食業などを筆頭に、職場が倒産して収入が途絶えてしまうことも同じように怖い。感染予防を徹底して営業し続けるしか選択肢はないのかもしれない。

親に会えない、孫に会えない、亡くなった祖父母や親の葬儀にも参列できない人が増えている。葬儀は随分様変わりした。近親者のみ、あるいは近親者とお組合のみでの葬儀が増えていく。お通夜や葬儀後の精進落とも、飲食なし、折を配る対応をしているという。永年、家族のため、地域のために生きた故人を、心を尽くして送ることすらできないなんて、理不尽である。(館長)

シリーズ むかしの公民館報

台風10号 被害総額40億円 村内各地に大きな爪痕

九月二日夜半、村内各地は台風一〇号による大雨の被害にみまわれた。被害は村内の山間地を中心に発生し、一〇月一日段階の取りまとめでは、この大雨による村内の被害総額は土木関係を中心に約四〇億円にのぼり、三六災害以来の大きな災害であることが判明した。又、この災害の復旧には数年を要するものとみられ、改めて自然災害の恐ろしさを痛感させられるべきこととなった。



台風一〇号による大雨で村内を流れる河川は二八日になり急に増水を始め、夜になり各地で警戒水位を越えたため附近住民に避難命令が出された。また山沿いの地域では崖の崩落が相次ぎ、道路の不通行所も各地で発生し、孤立状態の部落も出た。翌日から被害調査が行われ、一〇月一日には概略の報告がまとめられた。(表一参照)これによると、土木関係の被害額約一〇億円、農産物約四、〇〇〇万円、治山関係約九億円、県道及び国県関係河川が約二〇億円で、総被害額は約四〇億円で達する見込みとなった。又、その後最終的にまとめられた農産物の被害は(表二参照)果樹・水

稲を中心に、こんにやく、桑などの被害を合わせ、総被害額は四二、四六六千円、被害面積は五四・六ha、被害戸数三二六戸であることが判明した。果樹農家は昨年台風による被害を受けているだけに動揺は隠せないものがある。

又、この大雨により村内では床上・床下浸水の家や半壊・全壊の小屋なども出ており、特に伊久間団地や田中下などの新設された住宅地の浸水は、今後の計画に少なからぬ問題を提起するものとなりそうだ。

中央保育園、土石流に埋まる

小川区

小川区でも台風一〇号の影響により九月二八日午後六時頃から崩落、増水と危険箇所が数多く発生した。なかでも鞍馬沢川の上流の山林が崩落し、土石流が起り六時半過ぎ一期に河

川が増水し、馬場の下原郷さん方が床上三〇センチを超え浸水となり、鞍馬沢川をあふれた水は中央保育園の園庭を埋め、保育園も床上二五センチの浸水となった。県道が川となり道

表1 台風10号被害一覧表 (10月11日現在)

被害名	箇所数	被害見込額
木地	191箇所	717,070千円
耕地	180	247,950
林道	11	77,900
河川	62	(2,000,000)
山物	47	
家屋	82	898,700
床上浸水	-	39,000
床上浸水	5戸	
床下浸水	68戸	
全壊(非住宅)	2戸	
半壊(非住宅)	2戸	
一部破損	24戸	
避難世帯	44戸	
被害総額	(県道・国県河川は含まず)	1,980,620千円

表2 台風10号農作物被害一覧表 (最終)

被害名	被害面積	被害見込額
野菜	3.0ha	4,328千円
果樹	30.0	3,219
特用作物	2.5	7,150
桑	2.0	1,150
米	9.6	16,054
果樹	2.5	6,092
桑	5.0	4,473
総被害	54.6ha	42,466千円

被害戸数 326戸 (総戸数 1,113戸)

道路不通で4日間孤立

大島区

台風一〇号くづれの温帯低気圧によってもたらされた大雨は、各地に甚しい被害を生じさせた。幸い人命は無事であったが、道路・人家・農地・山林に大きな被害が出た。なかでも、大島地区は、四日間交通が途絶えて孤立状態が続いた。

道路開通後、大島へ入ってみると、沢という沢の殆んどが崩れて、道路も応急処置で仮橋をかけ車がどうにか通れるといった様子であった。四日間の孤立で食料品に支障をきたし、肉魚類が特に不足したが、缶詰等を近所で融通し合い、生活を加々須より大島へ行く途中の川沿の田は、土砂に埋まり無惨な姿になっていた。農業に対する被害は、水田一〇〇アール、こんにやく二五〇アール、桑畑二〇〇アール程度である。収穫作事が間近なこんにやくは、土砂の流入によって

高木俳句会

文月句会詠草

暮れゆけば天竜荒き梅雨出水
にがうりの朝陽に光る屋根の上

梅雨晴れて出水工事の音高し
梅雨の間や媪集ひて夕陽浴び

山の宿湯舟を揺らす蝉しぐれ
新盆の母の笑顔に真向へり

枇杷熟れて父の好物供へけり
銀杏の実る大樹をふり仰ぐ

ただ無心卒寿間近の髪洗ふ
承らへてラジオオラスの赤さやか

宮島 高枝

後藤 澄寿

筒井 政美

市瀬 千文

西元くにこ

新茶立つ揉み手の父が汗拭く
父母の在す如くに新茶汲む

垣根越し紅うつぎ恋ふ青き空
採れたての水茄子漬けむ色に染む

郭公や心伝わり鳴き交わす
神棚の朝日と拝む初胡瓜

出水後の川面風立ち透き通る
梅雨長く小鳥綾なし飛び交ふる

万緑の風も香りも届けたし
八月や我に繋がる戦禍知る

我が家の夕餉ゆたかに夕螢
振り花小花左右に咲き揃ふ

廻り来る鳶の眼しかと梅雨開ける
凌霄花互いに許す忘れ癖

市橋 ヨリ

田中 君子

村山たか子

秦 恭子

松葉 孝子

原 美恵

吉川てる子

夜間ソフトボールリーグ戦開幕

令和二年度の夜間ソフトボールリーグが、七月十五日に開幕しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため二リーグ制にし、全体の試合数を減らしての開幕となります。



開幕した夜間ソフトボールリーグ戦

ケガとコロナへの感染には十分注意していただきながら、熱い戦いを通して親睦を深めていただきます。

編集後記

昭和五十八年十月 館報 第一九二号より一部省略して掲載

名古屋の娘に会いたい。東京の息子に会いたい。以前ラジオで聞いたことがある。離れて暮らす子供に盆と正月年二回会えるとしたら、七十歳の親なら八十五歳まで生きていた場合、たった三十回しか会えない。なのにこのコロナで会える回数が減ってしまった。親の葬式にも帰ってくるな。」と親戚に止められた娘さん。

長く甚大な被害をもたらした梅雨もいよいよ明け。けれど心は晴れない夏である。